

# 日本の美しいことば

## 〜万葉言葉塾〜

### 【第16回】心と言葉

奈良大学文学部国文学科教授

上野 誠

良い言葉を覚えなさいとよく言われますが、言葉とは心を表すもの  
です。ほんとうの意味で、言葉を知るためには、まずは心が大切  
ではないでしょうか。今回は心と言葉について考えてみましょう。

よく、良い言葉を覚えなさい、正しい言葉を覚えなさいといけませんと言われます。しかし、私はそういう言葉を聞くと、大切なことを忘れてい  
るのではないかと思ってしまう。それは、言葉とは心を表すものであるから、まずは心が大切で

はないのかということ。ですから、言葉を鍛えるということとは、心を磨くということと一体の  
ことです。

私の近所に、頼まれてもいないのに、毎朝公園の砂場を掃いている人がいます。よく見ると、石

やガラス、釘などが紛れ込んでいないか、見ているようです。やって来たお子さんが、怪我けがをしないように、見守ってくださいっているのです。私は、公園を通りかかる時に、

「おはようございます」

と声をかけるようになりました。そのうち、

「今日は、寒いですねえ」

「今日は、暑くなりそうですねえ」

などと、声をかけるようになりました。また、春になれば、

「今日は、花冷えですねえ」



と話すようになりました。「花冷え」とは、桜の花が咲く頃に、急に冷え込む日のことをいいます。こういう言葉を自由自在に私はかけられる訳ではありませんが、早く自由にかけられるようになるために心がけています。

では、あいさつで大切なことは、何なのでしようか。大切なことは、地域の子供たちのために、砂場をきれいにしよう、安全にしてやろうという気持ちを持っていてくれる方に對する敬意です。私は、近所の子供たちを見かけると、

「皆が楽しく遊べるのは、この方のお蔭ですよ。『ありがとう』と言いなさー」

と言うことにしています。誰からも頼まれてもないのに、ただ家の前に公園があって、砂場があるというだけで、子供のために、砂場を掃く人。そういう人に対して、感謝の気持ちを込めてごあいさつをする。そういう気持ちがあれば、

——ではどうやったら、気持ちのよいごあいさつができるのか。どうやったら、季節の話題で心をなごませることができるようになるのか——を自然に考えるようになります。

皆さんは、学校で俳句を習いましたか？ 俳句には、必ず入れなければならぬ言葉があります。これを「季語」といいます。「花冷え」の花といえば、桜のことですから、桜のころの季節ということ、春ということになります。

「いや、秋に咲く花だってあるぞ」と言う人もいるかもしれませんが、季語というものは、約束事なので、「花冷え」といえば春の季語ということになります。

私は、国語の先生ですから、国語のテストの問題を作らなければなりません。その折によく出題するのが、この「花冷え」と「七夕」です。「七夕」は夏の行事と思いますが、旧暦の七月は秋にあたりますから、「七夕」は秋の季語となります。言わば、ひっかけ問題です。一見わかりやすそうに見えて、実は違うという問題です。

テストで、良い点を取ることは大切です。だから、「花冷え」と出てきたらすぐに春の季語だとわからねばなりません。でも、そこで終わってしまふ人は、ほんとうの意味で、その言葉を知っている人ではありません。桜が咲きはじめてのに、——今日はなぜか、寒いなあ——と思ったら、砂場の前を通りかかるときに、そこで掃除をしてくださっている人に、

「花冷えですねえ」

とごあいさつしてみよう。そうすれば、さわやかな朝のごあいさつになる。そう思って、「花冷え」という言葉を使える人が、本当の意味で言葉を知っている人なのです。

テストで答えられても、それは、それだけのことです。心のない言葉は、ただ空しいだけです。